

銀漢亭日録



伊藤伊那男

11月21日(月)

▼発行所は12月号の発送作業。1月号の選句稿受ける。店大西さんグループ10人位。過去2社を共にした神村君が東大ベンチプレス部仲間3人と。企画部、新年大会の会場下見のあと寄ってくる。洋酔さん久々……など賑やか。

22日(火)

▼角川平成俳壇またダンボールで届く。2日前に1月号分送ったところなのに……。これがずっと続くことになる。暮目良雨さんより電話。春耕同人欄の校正作業、さすがに忙しそうなのでしなくてよいと。有難し。ひまわり館にて「萩句会」。選句に行く。店、「沖」の広渡さん会社仲間と5人。三輪初子さん、角川OBの土屋さん親子と。今井聖、池田澄子さん。対馬、小石さん。「句句会」のあと有史さん派など賑やか。

23日(水)

▼勤労感謝の日。「銀漢」1月号の原稿すべて書き終わる。礼状、通信その他雑務。夕方から近所の日帰り温泉。美しい湯へ。休憩所で2時間ほど寝てしまふ。

24日(木)

▼発行所、三代川次郎さん「北軽井沢句句会」の佐々木終吉さん「銀漢」ホームページの件で打ち合わせ作業。終吉さんがクリスマス用のリースを作ってきてくれる。見事な作品。飾る。江戸城天守閣再建のNPOの方々7名。あとは閑散。22時に閉める。

25日(金)

▼「雲の峰」連載寄稿の「そして京都」、来年も執筆継続を朝妻主宰が認めてくれたので、4、5回分書き溜める。まだまだ京都に辿り着かない。発行所「金星句句会」、あと5人店へ。うさぎ、近恵さん。全体閑散。クリスマスツリー飾る。

26日(土)

▼午後、日本橋「与志喜」にて「總句句会」。その前に御徒町

2日(金)

▼萩原一夫君より緊急入院と。厳しい病状。発行所、小野寺清人さんの「大倉句句会」あと6人店へ。洋酔さんの案内で、星野高士、片山由美子、鳥居真里子、榎未知子、黒崎政男(東女教授)夫妻、川柳作家のやすみりえさんなど10名ほど。なにやかや賑やか。萩原君より更に厳しい病状のメール。4日曜日に見舞に行きたい旨のメールを送る。

3日(土)

▼9時半、池袋発レッドアロー号にて秩父夜祭へ。生憎の雨。慈眼寺、祭場、秩父神社などを散策するが雨激す。秩父祭会館に入りビデオ鑑賞などしていると13時過、見事に雨止る。屋台で酒少々、蕎麦など。歌舞伎、神楽あと札所2つ巡り、荒川の橋上から冬霞の武甲山を眺む。西光寺境内にて武田一派と会い、11人で「わへい蕎麦」。酒少々。暗くなるまで待つ。本町の角に陣取り、山車、屋台計6基の辻廻しを見る。火花がどどんと揚り忙しい。21時半のレッドアロー号、池袋まで寝る。0時帰宅。この日一日がかりで酒3合弱。缶ビール1本に抑えたのだから偉い。

4日(日)

▼7時起床。9時17分の新幹線に飛び乗り名古屋へ。愛知県がんセンターへ萩原一夫君の見舞。銀漢集同人の氏は私の幼稚園時代からの友人。会員・中村絃子さんと待合せ、病室へ。喉に綿を詰めている萩原君と1時間ほど筆談。あと絃子さんと名古屋駅構内の寿司屋に入り、話。絃子さんも同郷。15時半の新幹線に乗る。乗客多し。品川まで寝る。

5日(月)

▼快晴。真郎兄から蕪鰯。高野清風さんから丹波黒豆腐く。雑用いろいろ。昨日風邪気味にて市販の薬飲み厚着して寝たのが功を奏し咳止む。ひまわり館にて「秩父夜祭句句会」出句23人。終つて店へ14人。

6日(火)

▼寒い。選句など。踏青子さん、谷本東京医科歯科大副学長退任の感謝の会7人。猪鍋、下仁田葱など群馬のもの。22時半閉める。酒抜く。

27日(日)

▼10時過、高幡不動前。兄、兄嫁が車で迎えに来てくれて、多摩メモリアルパークの父の墓。七回忌。聖蹟桜ヶ丘のフランス料理店「エルダンジェ」にて会食。思ひ出話。料理佳。鯛カルパッチョ。すずき焼、子羊ソテーなど。ワイン。

28日(月)

▼礼状、その他、雑務。「銀漢賞」の選考に入る。松山の「春耕」同人、藤田ひろむさんより励ましの便りと基金あり。「湯島句句会」。出句99人。出席42人。たまたま高校同期の大住君来店。2ヶ月前から「高遠句句会」に投句を始めていたので選句させる。そこへ伊那の小池百人君が出張帰りに寄ってくる。彼も同期。

29日(火)

▼岐阜の堀江美州さん上京とて朽木直さん幹事で歓迎句会。美州の「美」説込みを入れて3句出し。一平、袖口、真砂年、有史、うさぎさんなどの来客も選句に巻き込む。料理はてる緒さんのミートローフ、支那竹と葱の和物、大根と豚ばらの煮込みなど。美州さん持参の明宝ハム旨し！ 終つててる緒、淳子、いづみ、肇さんと餃子屋。

30日(水)

▼発行所にて企画部、新年大会の打合せ。終つて7名店。次女杏の婿グループ、などなど。

12月1日(木)

▼昨夜から冷たい雨降りつく。11月の月次収支まとめ。「銀漢」1月号校正。注文、礼状その他雑用多し。亡妻の妹の夫君、五日市征和さん、鉄鋼新聞社の村上記者と。発行所「十六夜句句会」。終つて5人。相田恵子さん元気に復帰。

7日(水)

▼発行所は「きさらぎ句句会」。終つて4人店へ。店では企画部が新年俳句大会の打合せ及び応募句の整理。23時閉める。酒抜く。

8日(木)

▼太平洋戦争開戦日。寒い曇天。選句続く。発行所、「湯島句句会」の運営委員会。21時頃まで。あと店へ7名。早い時間に清瀬さん3名で来店。雨。「天為」の対馬、有史、玲奈、恭子さん。阪西、峯尾文世さんなど。

9日(金)

▼8時頃、雪！ 寒いぞ！ 角川の企画図書『決定版俳句入門』(来春刊行予定)の「名句に学ぶ」の項、執筆準備。実は12日締切。大変！ 銀漢同人・久保一岩さん逝去と。叔父池上樵人(萬緑)がやっていた「美林会」の仲間。酒豪であった。大溝妙子さん元氣な顔見せてくれる。店ほとんどが「般客」という珍しい日。

10日(土)

▼朝、犬の散歩。初霜を見る。10時、発行所にて運営委員会。13時、「銀漢本部句句会」52人の参加。終つて「庄屋」にて親睦会。16人。これは少ない。19時、発行所に戻り、大和、禪次さんと「銀漢賞」についての第1回目の打合せ。21時まで。今夜は皆既月食。時折、月を覗きに庭に出る。

11日(日)

▼朝から庭師の河野君入る。桃子の友人。この2年、狭庭ながら何の手入れもできず荒れ放題で、先日、桃子が来て啞然としたもの。河野君見事にきれいにしてくれる。床屋に行き頭もすっきり。

12日(月)

▼発行所は「勉強会」。森澄雄について。終つて9人店へ。酒飲まず。

13日(火)

▼店、「火の会」。峯尾文世、大田うさぎ、今井肖子、阪西敦子、卓田謙二、杉阪大和、斎藤朝比古。今日は欠席者多し。投句11人。後半、混むが追いつかず。

14日(水)

▼昼、発行所「梶の葉句句会」。選句に上る。遠方会員の投句も受け付けることになり盛況。